

## 高知大学演習林の近況

高知大学農林海洋科学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター森林生産環境部門

関係教職員について、本年4月から、演習林に関わる教員として新しく、動物生態学を専門とする富田幹次助教が赴任した。農林海洋科学部が、令和4年度から農林水産業のDS/DX（デジタルサイエンス/デジタルトランスフォーメーション）関連の教育を強化するために改組することに伴い、学部として新規採用した4名の助教のうちの1名で、森林科学と演習林に関する教育研究を担当していただくこととなっている。このDS/DX教育強化関連の経費により、講義や実習で使用するための地上LiDAR機器や複数台の実習用ドローンなども購入できた。学部共通の講義や実習に加え、演習林関係の実習でもこれらを活用していく予定である。

本学演習林で長年勤務され管理運営業務に多大な貢献をされてきた今安清光フィールド室長が、森林管理技術賞特別功労賞を受賞された。関係教職員一同にも今年度随一の朗報であった。今年度で退職されるため、一部不明瞭であった林班・小林班界の明確化や資源管理情報や施業計画情報など、年度内に必要な引継ぎ業務を関係教職員により実施している。

令和2年度から引き続いているコロナ禍の下での実習に関しては、令和4年度の1学期においては感染状況も比較的落ち着いていたため、十分な感染対策を施したうえで演習林宿舎における宿泊を伴う実習も実施することができた（写真1）。令和2年度、3年度と開催を中止した公開森林実習（中四国農学系7大学のフィールド演習と併催）については、今年度は開催する予定で準備を進めていたが、8月上中旬に高知県の感染状況が再び悪化したことから、残念ながら今年度も中止という判断を下すこととなった。準備の過程で議論された実習内容の見直しなどは、来年度以降の実習に反映する。なお、中四国農学系7大学のフィールド演習に関する隔年実施の会議は、今年度は久しぶりに対面で幹事校である広島大学に置いて開催され、情報交換も行いつつ、連携実習を継続することの効果と意義に加えて、関係者が定期的に対面で集まることの意義も改めて確認され、いったんは不定期開催が提案されていた対面会議も継続されることとなった。

秋以降の学内学生向けの演習林を利用した実習については、全演協秋季総会に備えた近況報告の原稿を執筆した8月下旬時点では見通しは不明であったが、9月中旬の測量関係の実習はここ2年間と同様に宿泊なしで行うため演習林でなく学部キャンパス内での実施となったものの、9月末の3年生最後の育林実習および10月中旬の2年生最初の育林実習ともに、宿泊を伴うかたちで演習林を使用して実施することができた（写真2）。関係各位にこの場を借りてお礼申し上げる。

（森林生産環境部門長 鈴木保志）



写真1 春の育林実習（西団地にて植林）



写真2 秋の育林実習（宿舎にて用具取扱）